

景況 レポート

9月分

情報連絡員 80名

自動車販売は 3カ月連続して好調

～建設業界は先行き不安の声～

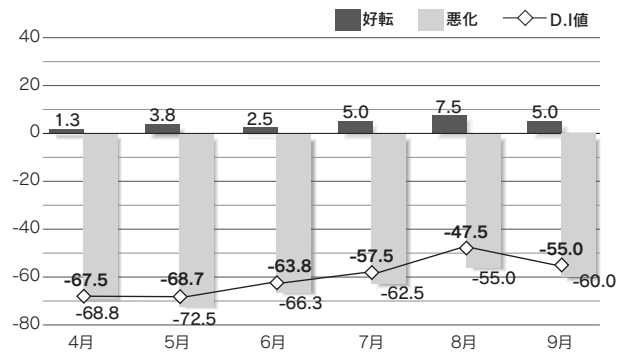
景気概況

9月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが5.0%（前月調査7.5%）、「悪化」が60.0%（同55.0%）で、業界全体のDI値は-55.0となり、前月調査と比較し7.5ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-53.1で前月調査（-65.6）に比べ12.5ポイント上回った。また、非製造業全体としてのDI値は-56.2で前月調査（-35.4）に比べ20.8ポイント下回った。

（回答数：80名 回答率：100%）

業界全体好転悪化割合〔前年比／同月比〕



※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員	【天気図の見方】 前年同月比のDI値をもとに作成しています。
製造業							
非製造業							

業界の声

豆腐製造	9月は残暑が少なかったことが影響し、前年同月比では若干売上が増加した。しかし、回復基調には程遠い。
味噌醤油製造	8月分の出荷量は、前年同月比で味噌が90.3%、醤油は122.6%で推移した。
清酒製造	8月分の清酒出荷量は1,540 kℓで、前年同月比102.8%で推移した。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比で100.1%、純米酒が102.8%、本醸造酒が91.1%、レギュラー酒が105.6%という状況になっている。
繊維・同製品	売り場は実需期に入っているが、売れ行き改善の情報はない。発注量も依然として増えていない。工場によってキャパシティの埋まり具合に格差があり、技術的に高度で特徴がある工場、短納期対応が可能な工場に受注が偏っている。
木材・木製品	住宅着工件数は前年同月比で大幅な減少が続いており、製材品の動きは悪い。原木価格は品不足気味から若干値上がり傾向であり、製品価格に反映されなければ製材工場に影響が出ることも予想される。
窯業・土石	4月～9月の出荷数量は前年比79%となった。8月、9月は前年同月比94～95%台に回復しつつあるが、依然として先行きは不透明である。
自動車販売	9月の新車販売台数は、登録自動車が2,784台（前年同月比116.6%）、軽自動車が2,049台（同92.8%）で、合計4,833台（同105.2%）であった。登録自動車は3カ月連続して前年同月を上回った。
石油製品	ガソリン1ℓ当たり124円で前月比1円の引き上げ、軽油は1ℓ当たり102円で前月比1円の引き上げ、灯油（配達込み）は18ℓ宅配で1,239円で前月比38円の引き上げとなった。価格競争が激しく、マージンの確保が難しい状況となっている。
商店街	一般消費者の買い控えにより収益が圧迫され、総じて商売は厳しい状況にある。〔秋田市〕 雇用等の改善が進まず、景気回復の兆候は全く見られない。〔鹿角市〕
旅館	シルバーウィーク効果で売上が増加した。宿泊施設サイドも景気の低迷による個人消費の落ち込みを懸念し、ツアー商品を多数設定したことも宿泊客数を伸ばした要因と思われる。
一般建築	公共工事の前倒し発注が停止した。資金繰りも厳しい状況である。